

平成30年度学生モニター会議について

1. 目的：

学生モニターは、本学の教育担当理事の要請に応じ、教育、学生生活支援及び就職支援等に関する取組に関して、学生の立場から建設的な意見、提案等を提示するものとする。

2. テーマ：

「学生の意欲を引き出す授業

—魅力的な教育実践とは？そのための TA 養成や PFFP とは？—」

3. 開催日程等：

時期*	活動内容	備考
4～5月	学生モニターの公募	計43人が応募
6月上旬～中旬	TA経験等のアンケート	n=38(回答率88.4%)
6月下旬	テーマ決定	
6月下旬～7月上旬	プレアンケートの実施	n=22(回答率51.2%)
7月19日	学生モニター会議	参加学生16人、会場は新中央図書館
7月25日	作業部会(第1回)	参加学生5人、会場は伊都図書館
7月31日	作業部会(第2回)	参加学生7人、その後は代表者2人が取りまとめ
8月6日	理事報告会	参加学生3人、その後は代表者2人が発表
8月24日	作業部会	参加学生1人、その後は参加予定の3人で取りまとめ
8月27日	総長懇談会	参加学生3人、その後は代表者1人が発表

・TA経験等に関するアンケート(6月上旬～中旬)

今年集まった学生モニターたちの中にTAとして教えた経験やTAから教わった経験があるものがどのくらい存在するかについて、Moodle上に設けたコース「2018年度学生モニター会議」の中で実施した。

・プレアンケートの実施(6月下旬～7月上旬)

魅力的な教育実践及び、TA養成やPFFPについてMoodleを使って事前にアンケートを実施した。

なお、現在進行中の TA 制度・PFFP 改革が TA を訓練と対応した三段階（preTA、（新）TA、Teaching Fellow）に分けることを想定している等の状況を説明する資料を BookRoll にアップロードし、プレアンケートに回答する前に閲覧しておくように指示した。

・学生モニター会議の開催【参加人数 16 名】

日 時 平成30年7月19日（木） 18:30～21:00

場 所 新中央図書館4F アクティブラーニングスペース

1. 話題提供（15分）

2. グループ活動①

専門分野や立場が異なる学生同士で議論（30分）

3. 全体共有①（3チーム）（25分）

まとめた内容を、チーム別に発表する。発表に対して意見交換を行う。

4. グループ活動②

文理別の学生同士とその他任意のチーム（30分）

5. 全体共有②（4チーム）（25分）

まとめた内容を、班別に発表する。発表に対して意見交換を行う。

・理事報告会に向けた作業部会（2回）

1. 作業部会（第1回）（5名）

日 時 平成30年7月25日（水） 19:00～21:00

場 所 伊都図書館4F アクティブラーニングスペース

2. 作業部会（第2回）（7名）

日 時 平成30年7月31日（水） 15:00～18:00

場 所 新中央図書館4F グループ学習室

・理事への報告【参加人数 3 名】

日 時 平成30年8月6日（月） 11:00～12:00

場 所 センター3号館 3405室

参加者

理事：丸野理事、玉上理事

学生：農学部B4（1名）、文学部B3（1名）、工学部B3（1名）

・総長報告会に向けた作業部会（1名）

日 時 平成30年8月24日（金） 14:00～15:00

場 所 新中央図書館1F

・総長への報告【参加人数3名】

日 時 平成30年8月27日(月) 14:00~15:30

場 所 椎木講堂4F 特別応接室

参加者

理事：久保総長、丸野理事、玉上理事

学生：文学部B3(1名)、工学部B3(1名)、システム情報科学府M2(1名)

4. 理事報告会及び総長懇談会の概要：

理事報告会では、代表学生2名がプレゼンテーション資料を基に、報告を行った。具体的には、①魅力的な教育実践とは？②そのためのTA養成やPFFPとは？の2つの観点から、グループワークやプレ・アンケートの結果を踏まえて報告した。

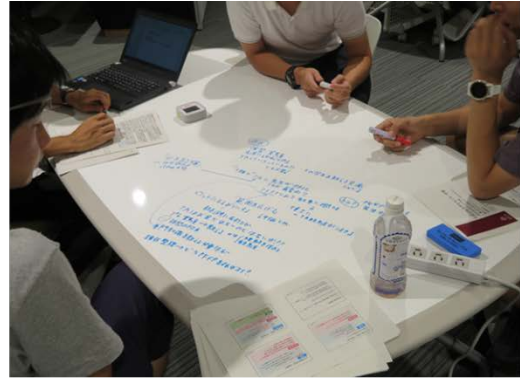
報告後、引き続いて、理事と学生モニターの意見交換が行われ、学生の立場から、意欲を引き出す授業と引き出さない授業、及びTAの意義や運用、TA養成やPFFPの意義について積極的な意見が出された。また、日本の学生の学修時間は短いことや、授業内容は、どの学生のレベルに合わせて講義すべきなのか、さらに、九大のキャンパス立地問題についても、意見交換が行われた。

両理事からは、今後は充実したTA教育を実施する予定であるが、大学に入学したら教員と学生の関係は共に真理探究を目指す学徒であって、高校までの学びのスタイルから転換する必要があること、学問上の議論においては対等に渡り合わなければならないと自覚し、積極的に教員とコミュニケーションをとるべきであること、むしろ、学生の立場から建設的な意見、提案を提示してほしいという指摘があった。また、ルーブリックやシラバスは、教員と学生との間の契約書に相当するもので、しっかり見る必要があること等について指摘がなされた。

また、両理事からは、総長を囲む懇談会を設けることが提案され、総長懇談会の当日は、理事報告会と同じく、まず、学生モニター代表者により報告が行われた。報告後、総長をはじめ両理事と学生との活発な意見交換が行われ、総長及び両理事からは、知的好奇心を失わず総合大学の良さを理解しどのような知的環境を作るのか、また、生活面も含め学生モニターの方で優先順位をつけ、学生の目線からどのような環境づくりが欲しいのかをまとめてほしいという指摘がなされた。



7月19日:教育改革推進本部の特任助教より、今年度のテーマやブレアンケートの結果について、説明があった。



7月19日:グループごとに議論し、内容共有を行った。



8月6日:参加者は3名で、その内、代表学生2名がプレゼンテーション資料を元に、報告を行った。



8月6日:意見交換では、魅力的な教育実践やTA養成について、文理別に意見を述べた。



8月27日:参加者は3名で、その内、代表学生1名がプレゼンテーション資料を元に、報告を行った。



8月27日:意見交換では、総合大学の魅力や知的環境づくり等について、意見が交わされた。